

第33回 全国育樹祭



皇太子殿下によるお手入れ



式典でのアトラクション

第三十三回全国育樹祭が「森林に学び、森林の恵みに感謝し、美しい森林を育み子どもたちへつなぐ」ことを基本コンセプトに、皇太子殿下がご臨席のもと、一〇月四日に長崎県雲仙市の県立百花台公園で開催されました。

全国から約七千五百人が参加した今年の育樹祭は、雲ひとつない青空に恵まれ、アトラクションに出演した子どもたちも、まぶしいほどの陽光のなかで元気はつらつとした演技を披露しました。

前日には併催行事である「全国緑の少年団活動発表大会」も開催され、長崎県から全国に向けて森林を守り・育むメッセージが強く発信されました。

大会テーマは「未来へと夢をつないで 育てる緑」

長崎県は長崎大水害や雲仙普賢岳噴火災害といった未曾有の大災害を経験したことから、森林の重要性を県民が広く認識し、森林を健全な状態で次の世代に引き継ぐことを目的に、森林の保全整備や木材利用の促

進など森林の再生に向けた取組を積極的に展開しています。

今回の育樹祭は「豊かな森林を子どもたちへ引継ぎ、みどりあふれる美しい郷土を作りあげていく気運を醸成する」ことを大会方針に開催されました。

初めに、百花台森林公園において、平成二年に開催された第四一回全国植樹祭で天皇后陛下がご手植え



式典でおことばを述べられる皇太子殿下

されたヒノキを皇太子殿下がお手入れされ、その後、県立百花台公園において全国育樹祭式典が開催されました。

式典では皇太子殿下が「島原半島では、平成二年から約六年間続いた雲仙普賢岳の噴火活動に伴う火砕流や土石流により、多くの尊い命と森林が失われました。しかし、噴火活動終息の直後より、若い人たちがボランティアなど様々な人々の参加による森林の整備・保全活動が行われ、それが今日まで続けられていると伺っています。また、本年八月には、島原半島ジオパークが国内で初めて世界ジオパークネットワークへの加盟を認められました。これを契機に、教育や観光など幅広い分野で、



式典の全体風景

人と火山や森林が共生する地域づくりが進められていくものと期待されています。

私は、先ほど、天皇皇后両陛下がお手植えになりましたヒノキの手入れを行いました。そのヒノキの苗は、昭和天皇御即位記念の森林で採取された種から育てられたと伺いました。力強く成長している姿に感慨を覚えるとともに、今更ながら、親から子へと長年にわたり愛情を持って森林を守り育てていくことの大切さを感じました」とおことばを述べられました。

この後、全国緑の少年団活動発表大会入賞団体、全国育樹活動コンクール入賞者、「ふれあいの森づくり」優良市町村等、長崎県緑化等功

労者などの表彰が行われ、引き続き

て、女優の栗原小巻さんをストーリーテラー（語り部）に「森林と人との共生」と題したメインテーママトラクシオンが披露されました。アトラクションは、大島ミチルさんが作曲した音楽が流れる中、栗原さんの語りに合わせ、大自然に抱かれた生活、大自然の猛威と、それを克服し再生した喜びなどがストーリー仕立てとなっており、地元の中学生や高校生等を交えたメンバーによって演じられました。

併催行事

全国緑の少年団活動発表大会

多彩な取組 各地で展開

全国育樹祭の併催行事として、「全国緑の少年団活動発表大会」が全国育樹祭の前日、雲仙市のハマユリックスホールにて開催されました。

緑の少年団は現在、全国で三八五一団、約三四万人の子供たちが活動しており、緑化活動や地域の社会貢献などを主要な活動目的としています。その内容は地域の特徴を生かした独自の展開をみせています。

全国から選ばれて本年の大会で発

表したのは五団体です。

秋ノ宮小学校杉の子隊（秋田県）は学校林を活かしたネイチャーアーツなどの取組を、大久田小学校緑の少年団（福島県）は学校林から生産された間伐材を使った丸太小屋づくりの取組を、矢板市立西小学校緑の少年団（栃木県）は自分の木を決めこれを一年間観察する「ぼくの木・わたしの木」活動を、佐世保市祇園緑の少年団（長崎県）は地域内で採取したどんぐりを発芽させ山に植栽する「どんぐりの森づくり」の取組を、熊本市松尾西緑の少年団（熊本県）はボーイスカウトやガールスカウトと協力した緑の羽根街頭募金や清掃活動、花壇の植栽活動などの取組をそれぞれ発表しました。



全国緑の少年団活動発表大会での各団旗の入場